

気づく

“ゆるやかご近助さん” 養成講座

“ゆるやかご近助さん”とは…

昔から「向こう三軒両隣」また、「遠くの親戚より近くの他人」と言われています。

日頃から地域で「ゆるやかな見守り」を行い、いざという時は、まず隣近所の助け合いが大切です。

この「ゆるやかな見守り」を行うことで、高齢者等の異変に早期に気づき、関係機関等につなぐ役割を担う人材（ゆるやかご近助さん）を育成・確保するため、地域住民を対象に見守りに関する講座を実施します。

いつもきれいだった
花壇が枯れてるわ…

最近買い物に
来なくなったな…

昨日の洗濯物が
まだ干しっぱなしだわ…

普段生活する中で、
地域であいさつを
交わすことで、
顔見知りが増え、
負担のない範囲での
見守りができます。

最近あいさつしても
返事がないよな…

夜になっても
電気がついてないな…

ゆるやかご近助さん 養成講座(区受託事業)とは

- 板橋区町会連合会、板橋区老人クラブ連合会、福祉の森サロン、その他、見守り活動を推進しようとする団体などの集まりに社協職員が出向き「高齢者等の見守りガイドブック」を活用して講座を開催します。
- この講座は、身近な地域の中での“さりげない気づかい”や“ちょっとした目配り”“困ったときはおたがいさま”のご近所づきあいを再確認し、無理のない方法で実施できる「ゆるやかな見守り」の方法を正しく理解していただくための講座です。

今までは

- 無意識に
- それぞれがバラバラに
- 気になることがあっても「まあ、大丈夫だろう」

これからは

- 少し意識的に
- ご近所と連携を取りながら声かけ・見守り
- 気になるサインを見落とさない、放置しない

ご近所だから！

早期に発見できる！

柔軟・迅速に対応できる！

連帯感が生まれ、地域の活性化につながる！